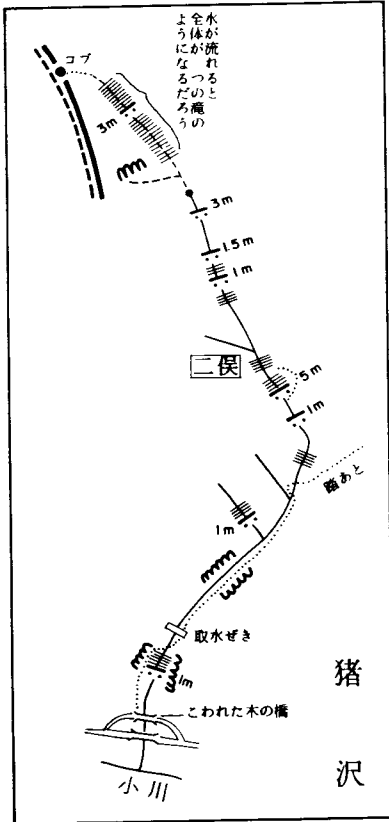


た。すべらないよう、気をつけながら登る。このあたり、ちよつと霧囲気がいい。次の五段は、どまん中を直登。水が多ければこんな芸当はできなない。もっとも左右どちらでも簡単に登れる。

沢幅も狭くなってきた。もうこの沢も終わりだ。急なナメを登りきると、岩の間からしみだす水が水源となっていた。遡行終了一四時五〇分。



ここから右手尾根上めざしてヤブをこぐ。尾根上には、わずかだが踏跡があった。(記)

猪 沢

標高約八六〇のピークまで登ってから、猪沢に向けて下降開始。す

一九八二年六月二日

「タイム」 出合(二四:一五) ↓ 沢終了(二四:五〇) ↓ 尾根(一五:〇)

ぐにカレ沢に出る。急な岩場の下りで、ブツシュにつかまりながら下る。雨が降って水が流れると、一つの大きな滝となりそうだ。

傾斜がゆるやかとなってきたあたりで水が出てきた。ナメと小滝が出てくるが、平凡だ。五段の滝を越えると、沢の切れ込みが深くなってきたが、単調さは変わらない。

踏跡が出てきた。左岸の小尾根から下ってきて、沢ぞいにと続いている。どうもこの沢はハズレのよ

うだ。

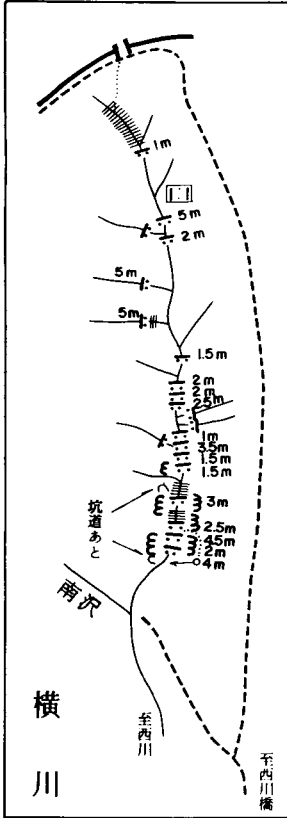
一六時二五分、取水口に着く。沢の中を、鉄管を通して水を引いている。どこへ引いていくのかは確かめなかった。

一六時三〇分、こわれた旧一三号国道の橋の下をくぐり、一三号国道に上がる。

(記・

「タイム」 下降開始(一五:一〇)↓

一三号国道(一六:三〇)



横川

七五

一九八二年五月二六日

一三時、下降開始。下り始めるとすぐ水が出てきた。ナメ状となっている。次々と支沢を合わせ、小滝を越えてゆく。下ってゆくうちに、右岸に坑道跡があった。ここで何を掘っていたのだろうか。
更に小滝をいくつか越えてゆくと、

四びの滝にでた。両側が岸壁で、ちよつと厳しい。左岸を捲き、小沢(水無し)を伝って降りることができ、訓練と思つて、ザイルを取り出し、下降。

この四びの滝の右岸にも坑道跡があった。ヘッドランプを取り出し、中をのぞく。奥が深い。中に入つてみると、ドロが厚く積もっている。ズボと入り込んでしまうので、すぐ引き返す。ここから南沢出合はすぐだった。

南沢出合から更に二〇分程下つてから、左岸の登山道めざしてヤブをこぐ。

(記・

)